

# 二の丸庭園お庭拝見

二条城築城当初、洛中洛外図屏風等から現在の位置に庭園が存在していたと推定され、家光の時代に普請奉行の小堀遠州によって庭園が改造されたと伝えられる。当初の二の丸庭園は周囲建物に取り囲まれた中庭的な庭園で、大広間からは天守閣の一部を望むことができたと考えられる。庭園は特別名勝に指定され、豪壮な石組を見ることができる

ソテツは南方系の植物なので、寒さを防ぐため、毎年11月末～12月初めに「こも」や「わら」で防寒作業を行う。この防寒技術は昭和14年以前に宮内省から引き継がれた伝統技術だ  
また現存するソテツは、徳川慶喜がお抱えの写真師に撮らせた(或いは慶喜自身が撮影した)という写真にも写っていることから、少なくとも平成15年現在で樹齢135年以上経過していることになる

後水尾天皇行幸時には池の汀、このあたりに御亭が建てられていた妙心寺隣妙院の「春日の局の御玉屋」がこの遺構にあたるという説がある

8代将軍吉宗の時代、理由は定かでないが、この部分が拡張され、二の丸庭園には15本ものソテツが植えられていたようだ

このあたりは、大正4年大正天皇即位式の「饗宴の儀」のため、南門から通じる賓客を迎えるための広場に利用されていた。翌年造園家小川治兵衛によって復旧作業が行われた。

家光の時代、このあたりに後水尾天皇を迎えるための行幸御殿等が建てられていた。

行幸当時、このあたりに建物があった

黒書院

蘇鉄の間

大広間

式台 造待

事務所

番所

東大手門

西築地塀

唐門

人止め柵

橋

堀

桃山門